

自己評価報告書(最終報告)

報告者

生活・健康系コース(技術・工業・情報) / 宮下 晃一

■平成23年度の目標に対する自己点検・評価

I. 学長の定める重点目標

I-1. 教育大学教員としての授業実践

本学の目的は、豊かな教養と教育実践力をもった教員を養成し、学校現場に送り出すことにある。このことを実現するには、教科専門・教科教育・教職専門等の各分野の授業が、学校現場の実践と関連性が保たれている必要がある。あなたは、教員養成大学の教員として、本年度はどのような授業計画を立て実現しようとするのか、これまでの取り組み状況を総括し、具体的に示して欲しい。

1. 目標・計画

10年ほど前から授業にパワーポイントとプロジェクターを導入し、視覚的に分かりやすい授業を展開してきた。学生は図示される資料を見ながら様々な事例や構造をその場では理解したような気になっているが、それは表面的な理解に止まり、深い理解に至っていないことがある。実際に自分の手で図を書き、式を展開して証明を行うことによって、深い理解が得られるように感じている。

そこで今年度は、パワーポイントでの授業展開に加えて、黒板への板書を増やして授業を行う。特に様々な機械の仕組みや構造を図に書きながら説明をし、それを学生がノートに写すことを通して、学生の深い理解に繋げることに取り組む。

2. 点検・評価

講義において、意識的に図を板書するように心掛けた。「機械基礎(実習を含む。)」や「機械工学研究」の講義においては、機械が動く仕組みについて教員が黒板に図示した図を、学生がノートに書き写すことによってより理解が深まるものと考えている。

II. 分野別

II-1. 教育・学生生活支援

1. 目標・計画

パワーポイントと黒板への板書とを融合することによって、学生が授業内容をより深く理解できるような授業展開を試みる。研究室所属の教員研修留学生が、自国での教育に応用できる新しい知識と経験を積めるように配慮して指導に当たる。

2. 点検・評価

パワーポイントと黒板への板書をより適切に使うことによって、学生の図を書く能力を伸ばすことができた。教員研修留学生に対して、潮流発電に関する研究データの整理を通して表計算ソフトの使い方を習熟させることによって、効率的な成績管理の能力を高めるように指導した。

Ⅱ－2. 研究

1. 目標・計画

海洋エネルギーに関する研究をスタートさせる。今年度は堀越海峡における潮流エネルギー活用に向けた調査に取り組む。

2. 点検・評価

堀越海峡の潮流利用を目指して、海底地形の計測と、船舶交通量の把握、海面における潮流の流速分布を行い、その成果を日本産業技術教育学会に発表した。これに関連して、「教育研究支援プロジェクト経費」を配分していただいた。

Ⅱ－3. 大学運営

1. 目標・計画

情報基盤センター所長、戦略的大学連携GP(四国の知)の学内委員長として支障なく業務を遂行する。

2. 点検・評価

情報基盤センター所長、戦略的大学連携GP(四国の知)の学内委員長として、支障なく運営に当たった。

Ⅱ-4. 附属学校・社会との連携, 国際交流等

1. 目標・計画

県下の中学校のロボットコンテストにおいて技術レベルが向上するように支援する。
総合教育センターが主催する教員研修の講師を担当する。
徳島県の環境教育アドバイザーを務める。

2. 点検・評価

総合教育センターが主催する教員研修の講師を担当した。
徳島県の環境教育アドバイザーを務めている。
鳴門市からの依頼によって市民講座「クリーンエネルギー自動車と私たちの暮らし」の講師を務めた。

Ⅲ. 本学への総合的貢献(特記事項)